

令和2年10月29日

令和2 - 3年度文化庁文化交流使の指名

文化庁では、平成15年度より、芸術家、文化人、研究者等、文化に携わる人々を一定期間諸外国へ派遣する「文化庁文化交流使事業」を実施しています。（別紙2参照）
この度、以下のとおり、令和2 - 3年度「文化庁文化交流使」を指名しましたので、お知らせいたします。略歴は別紙3を参照ください。

令和2 - 3年度文化庁文化交流使 ※敬称略，50音順（別紙1，3参照）

- ・ おおた そうたつ 太田 宗達 （公益財団法人有斐斎弘道館代表理事，有職菓子御調進所老松主人，茶人，工学博士）
- ・ おちあい よういち 落合 陽一 （メディアアーティスト）
- ・ きたむら あきこ 北村 明子 （振付家・ダンサー，信州大学人文学部 准教授）
- ・ しだ まき 志田 真木 （琉球舞踊家，琉球舞踊重踊流二世宗家）
- ・ とうしゃ すいほう 藤舎 推峰 （邦楽笛演奏家）
- ・ よしかわ じゅいち 吉川 壽一 （SYOING アーティスト）

<担当> 文化庁文化経済・国際課

国際文化交流室室長 鈴木 律子（内線3153）

専門官 徳留 丈士（内線3110）

電話：03-5253-4111（代表）

令和2-3年度文化庁文化交流使

氏名	年齢	性別	プロフィール	活動地域(予定)	期間(予定)	主な活動内容(予定)
おおた そうたつ 太田 宗達	63	男	公益財団法人有斐斎弘道館代表理事、有職菓子御調進所老松主人、茶人、工学博士	欧州, アジア	約2か月	茶、和菓子、歌、京文化、比較文化等、幅広い分野で講演、実演、展示を行ってきた経験を活かし、各地のニーズを踏まえ、交流活動を行う。茶会を開催するほか、現地研究者と共同で文化イベントを実施。日本文化への理解を深め、海外の文化人とのネットワークを形成する。
おちあい よういち 落合 陽一	33	男	メディアアーティスト	アジア, 北米, 中南米, 大洋州	通算約1か月	世界各国の文化施設やギャラリーでアート展覧会を開催予定。また、カンファレンスやフェスティバルへの視察・出展を行い、アート関係者とのネットワーク構築と日本のメディアアートの発信を行う。オンラインによる講演・ワークショップの実施、作品展示等を検討中。
きたむら あきこ 北村 明子	49	女	振付家・ダンサー、信州大学人文学部 准教授	欧州, アジア, 中東, 中南米, 大洋州	通算約1～2か月	舞踊表現活動について、講習会、コラボレーション、情報交換・交流などを教育機関、文化施設、アーティストら等を対象に行う。講習会では、実技中心のダンスワークショップ、レクチャーなど現地のニーズに応じて実施する。ワークショップでは独自の創作活動の紹介を踏まえた、現地のダンサー、振付家らの技術向上に繋がる内容を、レクチャーについては、一般の参加者から専門家の方々まで、わかりやすく刺激ある内容とし、日本の舞踊領域の現在や身体表現を中心とする芸術文化の情報発信を行う。
しだ まき 志田 真木	50	女	琉球舞踊家、琉球舞踊重踊流二世宗家	アジア, 北米, 欧州	通算約2～3か月	世界各地における公演の経験を活かし、大学等の教育機関や文化施設において琉球舞踊や琉球文化の魅力発信と普及のためのレクチャー・デモンストレーション、ワークショップを行う。また、琉球舞踊と現地の古典舞踊等とのコラボレーションや公演を検討する。
とうしゃ すいほう 藤舎 推峰	41	男	邦楽笛演奏家	欧州	約2か月	日本の伝統芸能「歌舞伎」に関連する音楽を中心に、篠笛・能管という楽器の役割や特徴を紹介する。実演では笛の独奏によって楽器の音色を深く鑑賞してもらう事を主眼とし、それに併せて「能楽」などの様々な他の芸能との関連を解説する。また、訪問国の現地アーティストとのコラボレーションも行う。
よしかわ じゅいち 吉川 壽一	77	男	SYOINGアーティスト	アジア, 欧州, 中東, アフリカ	約2か月	日本語学習者や芸術学部の学生を対象として、様々なアーティストや企業とのコラボレーションにおける観点や考えについて講演や「書」についての意見交換を行う。同時に、ワークショップを行い、参加者自身が体験のできる機会を多く設ける。また、工芸品とSYOINGのコラボレーションや、書道の文化を持つ国においては、現地の書道家とコラボレーションした共同制作を検討する。 ※SYOING…書のパフォーマンス

※本事業は令和3年度予算案の内容に基づき派遣を行うものです。予算の状況等によっては、内容の変更や規模の縮小等が生じる場合があります。

文化庁文化交流使事業（Japan Cultural Envoy）について

【目的・趣旨】

文化庁では、芸術家・文化人等を一定期間「文化交流使」に指名し、世界の人々の日本文化への理解の深化につながる活動や、諸外国の芸術家・文化人等とのネットワークの形成・強化につながる活動を展開している。

【概要】

文化交流使の活動の概要は以下のとおり。

① 概要

芸術家・文化人等を海外へ派遣し、それぞれの専門分野における実演、実技指導、講演、講義、上映、展示、共同制作、情報交換、情報発信等を行う。

※芸術家・文化人等には、複数の芸術家・文化人等で構成された1組の文化交流使とみなすことがふさわしいと文化庁が判断したものも含まれる。

②派遣期間

原則として1か月以上12か月以内（最長1年）

※1か月につき8回以上、文化交流使としての活動を行う。

③文化庁の負担

交通費、現地滞在費（定額の宿泊費と日当）、現地での活動経費（活動期間に応じた定額の謝金）等

【活動実績】

平成15年度から令和元年度までに、伝統音楽や舞台芸術、生活文化やポップカルチャーといった多様な分野で活躍する芸術家・文化人等、延べ143名と26組（団体）の文化交流使が世界88か国で活動を行っている。

※実績は、現地滞在者型（平成15年度～平成21年度）及び短期指名型（平成20年度～25年度）を含む。

【指名手続】

・文化交流使は、「文化交流使事業委員会」（※）の推薦を経て、文化庁長官によって指名される。

※「文化交流使事業委員会」は、文化交流使事業の適正・効率的な執行を担保するため、文化庁長官の下に置かれる委員会であり、関係行政機関、学識経験者等から構成される。

・候補者選定に当たっては、外務省在外公館及び国際交流基金海外事務所の協力を受け、諸外国における芸術家・文化人等のニーズ調査を行っている。

令和2 - 3年度文化庁文化交流使 略歴

(敬称略・50音順)

- おおた そうたつ
太田 宗達
(公益財団法人有斐斎弘道館代表理事, 有職菓子御調進所老松主人, 茶人, 工学博士) …… 1
- おちあい よういち
落合 陽一
(メディアアーティスト) …… 2
- きたむら あきこ
北村 明子
(振付家・ダンサー, 信州大学人文学部 准教授) …… 3
- しだ まき
志田 真木
(琉球舞踊家, 琉球舞踊重踊流二世宗家) …… 4
- とうしゃ すいほう
藤舎 推峰
(邦楽笛演奏家) …… 5
- よしかわ じゅいち
吉川 壽一
(SYOING アーティスト) …… 6

おおた そうたつ
太田 宗達

(公益財団法人有斐斎弘道館代表理事、有職菓子御調進所老松主人、茶人、工学博士)

【出生地】京都府京都市

【生年月日】1957年1月20日

【学歴】島根大学農学部卒業

京都工芸繊維大学大学院博士課程修了

公益財団法人有斐斎弘道館茶会担当理事。有職菓子御調進所老松主人。茶人。工学博士。京都府立大学、立命館大学国際関係学部非常勤講師。

江戸時代の学問所址である有斐斎弘道館において、茶文化をはじめとする各種講座を受け持つ。国内外で話題になる茶会も数多く開く。

専門は食文化、伝統産業論。

NHK『きょうの料理』、『ようこそ先輩』、『美の壺』ほか出演多数。



【主な著書】

『DVDで手ほどき茶道のきほん「美しい作法」と「茶の湯」の楽しみ方』（メイツ出版）、『京の花街一ひと・わざ・まち』（日本評論社）、『源氏物語と菓子』（剛書院）、編著に『日本文化のかたち百科』（丸善出版）、『総合調理用語辞典』（公益社団法人全国調理師養成施設協会）、共著に『平成のちゃかぼんー有斐斎弘道館茶の湯歳時記』（淡交社）など。

【ウェブ】

<http://kodo-kan.com>

おちあい よういち
落合 陽一 (メディアアーティスト)

【出生地】東京都

【生年月日】1987年9月16日

【学歴】東京大学大学院学際情報学府博士課程修了

メディアアーティスト。2015年東京大学大学院学際情報学府博士課程修了、博士(学際情報学)。筑波大学デジタルネイチャー開発研究センターセンター長・准教授。2017年～2019年まで筑波大学学長補佐、2018年より内閣府知的財産戦略ビジョン専門調査会委員、内閣府「ムーンショット型研究開発制度」ビジョナリー会議委員、2020年より2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)テーマ事業プロデューサーなどを歴任。



© 蜷川実花

メディアアートを計算機自然のヴァナキュラー的民藝と捉え、「物化する計算機自然と対峙し、質量と映像の間にある憧憬や情念を反芻する」をステートメントに、研究や芸術活動の枠を自由に越境し、探求と表現を継続している。専門はメディア芸術のほか、ヒューマンコンピューターインタラクションおよび知能化技術や視聴触覚技術を用いた応用領域。研究と表現の探求と様々な社会実装によって計算機自然(デジタルネイチャー)と呼ぶ新しい自然ビジョンを目指す。

【主な受賞歴】

2015年 World Technology Award、2016年に Prix Ars Electronica、ヨーロッパ連合より STARTS Prize を受賞。Laval Virtual Award を2017年まで4年連続5回受賞。2017年スイス・ザンガレンシンポジウムより Leaders of Tomorrow・40 Knowledge Pool 選出。2019年 SXSW Creative Experience ARROW Awards 受賞他、論文賞や作品賞など研究分野や表現分野で多数受賞。

【主な展覧会】

個展として「Image and Matter (マレーシア・2016)」、「質量への憧憬(東京・2019)」、「情念との反芻(ライカ銀座・2019)」、「未知への追憶(渋谷マルイ MODI・2020)」など。

その他の展示として、「AI more than human 展(バービカンセンター、イギリス・2019)」、「計算機と自然、計算機の自然(日本科学未来館・2020)」など多数出展。

【主な著書】 『魔法の世紀』(Planets・2015) 『デジタルネイチャー』(Planets・2018) 他

【ウェブ】 <https://yoichiochiai.com>

きたむら あきこ

北村 明子 (振付家・ダンサー、信州大学人文学部芸術コミュニケーション分野准教授)

【出生地】東京都目黒区

【生年月日】1970年11月12日

【学歴】早稲田大学大学院修了

振付家・ダンサー・演出家。1995年文化庁派遣在外研修員としてベルリンに留学。帰国後、独自の振付法論「グリッド・システム」を实践。ダンスと光、リズム、映像が交錯し展開する作品スタイルを確立する。2001年 Bates Dance Festival (USA)、2003年 American Dance Festival (USA) で委託作品を発表。ADFのために振付けた『enact oneself』はベストダンス・オブ・ザ・イヤーに選出された。2001年代表作『finks』を発表。本作は、世界60都市以上で上演され、モンリオール HOUR 紙の2005年ベストダンス作品賞を受賞。2005年にベルリン「世界文化の家」より委託された『ghostly round』は世界各国で高い評価を得た。



写真：大洞博靖

2010年よりソロ活動を展開し、インドネシアとの国際共同制作 <To Belong project>、東南～南アジア国際共同制作<Cross Transit project>を展開し、Japan Society NY、Kennedy Center (DC)ほか、北米にて上演。2018年発表した『土の脈』はKAAT 神奈川芸術劇場で初演、第13回日本ダンスフォーラム大賞を受賞した。

2020年よりアイルランド～中央アジア～日本を越境する <Echoes of Calling project> を始動。

実践的な舞台創作を通し、身体論、演出論、舞踊論の視点から「メディアとしての身体」に関する研究を行っている。「身体の思考」をもとに、舞踊表現の広がりや深まりを通して、人間の身体の魅力を探求し続け、創造活動、芸術表現を行うことで生まれるコミュニケーションの豊かさを追求している。

【主な受賞歴等】

1995年10月～1996年9月文化庁芸術家在外研修派遣奨学金制度

日本インターネット演劇賞最優秀パフォーマンス賞(1998年)

Dance of the Year by The Independent Weekly in North Carolina in 2003

Le top dix danse de l'année 2005 de Dfdanse : Dfdanse le magazine de la danse actuelle à Montréal

第7回日本ダンスフォーラム賞受賞(2012年)

2015年7月～9月 Asian Cultural Council 個人フェローシップグランティスト

第13回日本ダンスフォーラム大賞受賞(2018年) JaDaFo Dance Award 2018

【ウェブ】 <http://www.akikokitamura.com>

志田 真木 (琉球舞踊家、琉球舞踊重踊流二世宗家)

【出身地】東京都

【生年月日】1970年10月23日

【学歴】沖縄県立芸術大学大学院修了

3歳より、琉球舞踊家で国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者（総合）である母・志田房子に師事。沖縄県立芸術大学大学院修了。自身の独演会 琉球舞踊「真木の会」の開催や、国立劇場主催等の公演に多数出演。その他、文化庁や国際交流基金主催等による数々の海外公演にも参加。また、琉球舞踊の継承とともに、古典舞踊を基調としたコラボレーション等、他ジャンルとの融合にも多岐にわたって行なっている。現在、琉球舞踊重踊流二世宗家、沖縄タイムス伝統芸能選考会選考委員、琉球舞踊保存会伝承者。



© choyoryu

【主な受賞歴】

1994年 沖縄タイムス芸術選賞グランプリ受賞

1998年 沖縄タイムス芸術選賞奨励賞受賞

2005年 文化庁芸術祭参加「真木の会」で文化庁芸術祭賞新人賞受賞

2008年 沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞

2009年 文化庁芸術祭参加「真木の会」で文化庁芸術祭賞優秀賞受賞

2015年 文化庁芸術祭参加「真木の会」で文化庁芸術祭賞大賞受賞

2019年 第76回全国舞踊コンクール優秀指導者賞受賞

【ウェブ】

<http://choyoryu.com>

<https://www.instagram.com/choyoryu>

とうしゃ すいほう
藤舎 推峰 (邦楽笛演奏家)

【出生地】東京都港区

【生年月日】1979年2月5日

【学歴】東京芸術大学大学院音楽研究科邦楽囃子専攻修了

日本の笛（篠笛・能管）演奏家。父は笛演奏家中川善雄。祖父である藤舎流分家笛家元藤舎秀蓬、伯父の藤舎名生、そして中川善雄に師事。2004年伯父名生の前名である「推峰」を襲名。

東京芸術大学大学院音楽研究科邦楽囃子専攻修了。在学中に浄観賞、同声会新人賞、アカンサス賞を受賞。

国立劇場主催『長唄の会』やNHK『にっぽんの芸能』、国立劇場主催『明日を担う新進の邦楽・舞踊鑑賞会』など、演奏会、放送に多数出演。2017年紀尾井ホールに於いてリサイタル『藤舎推峰 笛の会』

を開催（平成29年度文化庁芸術祭参加公演）。アメリカ、モナコ、イタリア、オランダなどの海外公演にも参加。長唄協会会員。藤舎流「真しほ会」「青濤会」に参加。

古典芸能の活動の他、国内ポップスアーティストのコンサート、レコーディング等にも参加。西洋音楽と和楽器とのコラボレーションユニット「竜馬四重奏」としてポニーキャニオンよりデビュー。スペイン、タイ、マレーシア、ブルネイ、アメリカを訪問。



【主な活動歴】

2011年 国立劇場主催『明日を担う新進の邦楽・舞踊鑑賞会』出演。

2015年 新国立劇場バレエ団『近松 DANCE 弐題』（平成27年度文化庁芸術祭協賛公演）「『五障 Goshō（おさんと小春より）吾妻徳穂：振付・出演』作曲・出演。

2017年 紀尾井小ホールに於いてリサイタル『藤舎推峰 笛の会』（平成29年度文化庁芸術祭参加公演）を開催。

2018年 NHK『にっぽんの芸能』「多彩なる笛の世界」出演。

『東日本大震災チャリティコンサート』をこれまでに14回企画・開催。福島県相馬市教育復興子育て基金へ寄付。

【ウェブ】

<https://twitter.com/toshasuiho>

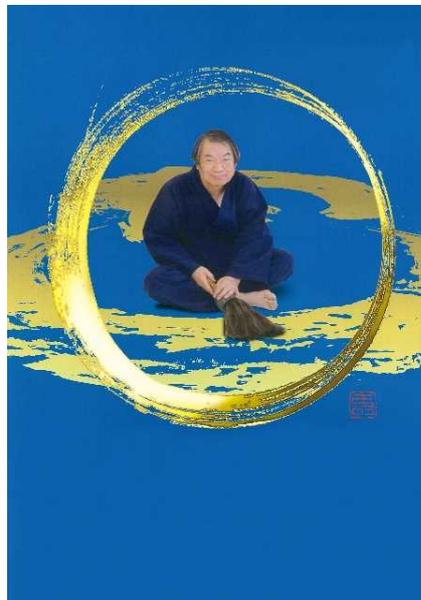
よしかわ じゅいち
吉川 壽一 (SYOING アーティスト)

- 【出生地】福井県福井市
 【生年月日】1943年1月7日
 【学歴】福井県立藤島高等学校卒業

上田桑鳩・宇野雪村・稲村雲洞・川崎一照各氏に師事。奎星賞、毎日書道展グランプリ、福井市民文化賞、毎日書道顕彰など受賞多数。毎日書道展審査会員。

自由な発想と優れた企画力でスケールの大きな表現世界を開拓。その活動は国内にとどまらず、UAEのドバイの赤沙砂漠にてヘリコプターでのSYOINGや、パリのエッフェル塔下での大書、また、中国・天安門前で45m×15mの大揮毫を観衆3000人余の前で披露するなど、SYOINGアーティストとして精力的に活動し続けている。

NHK大河ドラマ『武蔵』や講談社『バガボンド』『ジパング』等、数多の題字も手掛けている。



【主な活動歴】

- 2004年 パリ・エッフェル塔下にて『愛・AMOUR』を揮毫
 2006年 UAE・ドバイの赤沙砂漠にてヘリコプターを使用した展覧会を開催
 2009年 京都国際マンガミュージアムにて『まんがタイトルロゴと書之美 鳥獣人物戯書』展を開催
 2015年 東京ガールズコレクション 2015A/Wにて国連が提唱するメッセージをフラッグに揮毫
 2016年 世界遺産「下鴨神社」糺ノ森、国の重要文化財「舞殿」に作品を掲出
 2016年 世界遺産「天龍寺」国の史跡・特別名勝指定「曹源池庭園」にて25mの一字『龍』を揮毫

【ウェブ】

<http://www.yoshikawajuichi.com>

https://www.instagram.com/juichi_yoshikawa